

森林インストラクター東京会

Home

Forest Instructor Tokyo 頭文字をとって FIT(フィット)と呼ばれています

「FIT 友の会」森林インストラクター資格取得支援講座

「林業 - 実習」

2020年8月8日(土) 曇り 奥多摩町 鳩ノ巣フィールド

森林インストラクター資格取得支援講座の六日目「林業-実習」を森林施業現場の奥多摩町鳩ノ巣フィールドで実施しました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い当初の日程を変更し、熱中症に注意しながら参加者の感染防止策を講じて実施しました。

フィールド入口の広場で身支度を整え開会式を行いました。準備体操、安全注意、フィールド内で約束事項、鳩ノ巣フィールドでの森づくりの説明がありました。広場脇のワサビ畑では特用林産物について、葉っぱが食べられたウドや鹿糞を見ながらシカの食害の解説を聞きました。急斜面に作った作業道では間伐材の有効活用、花粉の飛散量が少ない苗を植林したスギ林、シイタケの原木栽培について説明を聞きました。広葉樹林では萌芽更新、スギ林では切り株更新について観察しました。



開会式：鳩ノ巣フィールドの説明

昼休みには、広葉樹の枝が斜め上方に伸びる理由、木材の音の伝わりやすさ、葉っぱに毛がある理由など樹木に係る面白い話を聞きました。



ヒノキの人工林：枝打ち作業の説明

午後は、針葉樹の成熟段階の人工林で、樹冠や林床の状態、枝打ちや間伐について、山元立木価格について説明を聞きました。間伐が進まず下層植生が殆どない人工林の状況や急斜面での土砂の流出、ケーブルワイヤを使った伐採木の運搬方法など、森林施業の実際と、日本の林業が抱える課題を実感しました。また昨年の台風で崩落した斜面や、表土が流失して岩盤が露出した谷、その下流に工事中的土砂流出を防ぐ治山ダムなどを間近に見ることができました。

閉会式では、参加した皆さんから、“講師の丁寧な解説で日本の林業の問題点が実感できた”、“テキスト記載事項について理解できた”、“複層林施業の現状が判った”などの感想が有り、講師に感謝して「林業-実習」を終了しました。

参加者：【会員】氏家さん、関口さん、【一般】田中さん、長谷川さん

講師：関 美知夫さん

(報告：FIT友の会運営部会 植田 幹夫)





シカ柵の前：シカの食害について解説



作業道：間伐材を利用した木道



切り株更新：切り株の上で実生



昼休み：木材の音の伝わりやすさ



岩盤が露出した谷：間伐材で作った丸太橋



炭焼き釜の痕；昔は山中で炭に焼いて麓に運んだ



薬師堂の前：振興山村の解説



閉会式：複層林施業の質問に答える